



# 四国健康七

徳島大学病院産科婦人科  
桑原 章 准教授

「がんは治るけれど、将来の妊娠は無理かもしれない」  
いすれ結婚し子供ができて家族と一緒にの楽しい毎日が待っていると期待していた女性が、突然こんなことを告げられたら二重の衝撃です。乳がんや白血病患者への治療の副作用として、卵巣の働きが悪くなること、極端な場合には卵巣が完全な機能を失

ました。  
結婚している場合は精子と卵子を受精させ、受精卵（胚）を凍結します。胚凍結・保存の成功率は80%以上です。未婚の場合には卵子（未受精卵）を凍結します。卵子凍結の成功率も良くなっています。胚が3〜5個あると1回の妊娠が期待できます。未受精卵は15〜20個、卵子は1〜2個凍結できるからです。

## がん患者の出産に光明

がんと診断され、卵巣機能の低下が懸念される場合、可能であれば複数の卵子を育てる治療を10日程度行います。時間が無い場合は卵巣の凍結も試みられています。また、まだ改善点のある技術ですが、卵巣凍結による出産例が国内でも発表されました。

体外受精だけでなく、外科、内科など多くの専門家の力が必須な治療で、必要な時に紹介できる仕組みも必要です。そして将来患者さんの心身の状態が悪い、妊娠が可能な状態となったら、主治医と産婦人科が協力して、胚、卵子（卵巣）を凍結して体外受精などの技術を使って、安全に妊娠し、出産まで見届ける必要があらわれます。当然でもがん治療が病状を克服し、安全に出産できるための胚、卵子（卵巣）の凍結保存に取り組んでいきます。

止めてしまえば音から知られていました。病気で明日の命も知れないと言はられ、気持ちも動転してしまつた。「将来は子どもは授けられないと断念した」「さういふ言われても、その時点で重大性に気が付く人は少ないかも知れません。  
「命が助かっただけでもありがたい」「と割り切り、「妊娠できないのは仕方ない」と従来の考えを捨てました。しかし体外受精関連の技術が進歩したことで、がん治療の直前あるいは治療を並行して、卵子・卵巣を体から取り出し、長期間凍結・凍結保存することが可能になってま

ました。  
結婚している場合は精子と卵子を受精させ、受精卵（胚）を凍結します。胚凍結・保存の成功率は80%以上です。未婚の場合には卵子（未受精卵）を凍結します。卵子凍結の成功率も良くなっています。胚が3〜5個あると1回の妊娠が期待できます。未受精卵は15〜20個、卵子は1〜2個凍結できるからです。